

## 3号機 タービン機器冷却水系冷却水補給タンクの水位低下について(続報)

平成 21 年 9 月 11 日

### ◆今回お知らせする内容

推定原因	<p>タービン機器冷却水熱交換器(※1)(A)(以下、熱交換器(A))を点検した結果、熱交換器(A)内部の伝熱管からの漏えいはなく、異状のないことを確認しました。このため、海水側への冷却水の流出はありませんでした。</p> <p>熱交換器(A)点検前にタービン機器冷却水系(※2)の冷却水(脱塩水(※3))を排水するための柵(以下、排水柵)の調査をしたところ、十数箇所の排水柵へその上流に設置されている水抜き弁からの僅かな漏れが確認されました。このため、当該水抜き弁について増し締めを実施しました。</p> <p>現在、タンクの水位低下量は通常と同じ程度です。</p> <p>これよりタンクの水位低下量が通常より多くなった原因は、水抜き弁から排水柵へ僅かな量の冷却水が流れたことによるものと推定しました。</p> <p>なお、排水柵に排水された冷却水は廃液を処理する系統にて適切に処理されております。</p>
------	--

※1 タービン機器冷却水熱交換器は、タービン機器冷却水系の機器を冷却するための冷却水と海水との間で伝熱管を介して熱交換を行うことにより冷却水を冷却する装置。

※2 タービン機器冷却水系は、タービン機器(各種熱交換器、ポンプ、モータ)に脱塩水を供給して冷却を行うための系統。

※3 脱塩水は、不純物等を取り除いた水で、放射能を含んでいません。

### ◆これまでお知らせした内容

(平成21年8月17日お知らせ済み)

発生号機	3号機 (定期検査中) : 沸騰水型、定格電気出力110万キロワット
発生年月日	平成21年8月17日
発生時の状況	<p>3号機において、タンクの水位低下量が通常より多くなっていることを、8月13日に、運転員が確認しました。</p> <p>調査の一環として、熱交換器(A)を隔離したところ、タンク水位の低下が緩やかになったことから、本日、午前9時50分、冷却水が熱交換器(A)内部の伝熱管を通じて海水側へ流出していたものと推定しました。</p> <p>現在、熱交換器(A)を隔離し、熱交換器(B)を使用しており、冷却水の海水側への漏えいはありません。</p> <p>なお、タンクの水位低下は、その変化量を詳細に確認したところ、8月4日頃から同様に推移しており、8月11日の地震による影響で発生したものではないと考えております。</p>
放射能の影響	海水側に流出したと推定される冷却水(脱塩水)は、放射能を含んでおらず、また放水口に設置している放射線モニタの指示にも変化がないことから、外部への放射能の影響はありません。
お知らせ基準	「表2-4 タンクへの補給水量の有意な増加があったとき」に該当します。